

数ヶ月後、飼育 は改善された。

鳩は愛好家が引き取り、子ウサギは児童の家庭がもらった。
また、親ウサギたちは、PTAが地元紙に呼びかけてもらい手を募ったところ、予定の雌5羽を残してすべてもらい手がついた。

そして当方の助言のもと、飼育舎が改造された。

また、地域獣医師会は繁殖を防ぐ指導と これからのふれあい指導などについて学校を支えている。



巣箱の蓋は必ず開くように作り、毎日の掃除ができるようにする。
寸法や注意点は中川のマニュアルに書いてある。

排水溝について

- * 2枚上右の写真に排水溝があり、それに蓋をつけてあるが、これは不要である。なるべく掃除しやすいのが良いのであって、蓋をとって掃除するのではなく、最初から蓋をつけておかないで、すぐに糞をとれるようにしたい。溝の幅は石炭スコップがちょうど入って、糞をすくえるのがよい。また深さは2センチもあれば良い。コンクリートの飼育舎では、必ず巣箱をつくることと、夏の暑さに気をつけること。そして、必ず水切れが良いように、傾斜をとって、水たまりができない床にすることである。

尿の水たまりがあると、弱いウサギがそこに追い込まれて、いつも足の裏がじくじくしていた例も見られている。



左の写真は、資材置き場に作ったもの。
また隔離場としても使えるかもしれない。ただ雨の振り込みがあるだろう。